

入賞

一般建築物の部

建築主：大畠稜司建築設計事務所
設計：大畠稜司建築設計事務所
施工：大畠稜司建築設計事務所
所在地：松戸市常盤平陣屋前1-13

カフェから見える商店街の未来

One Table

買い物カゴを下げた近隣の主婦たちでにぎわう商店街は、なつかしい昭和の風景に退いてしまった。One Tableは、そんな商店街のお店をリノベーションしてできた40㎡足らずのカフェである。桜並木に面するこじんまりしたスペースはしっとり居心地がいい。



さくら祭りの風景



店内からさくら通りを臨む

このカフェを運営するのは、並びの店舗を改装して設計事務所になっている建築家の大畠さんだ。曜日によって出店者は異なる。シャッターが下りたままの街並みはさびしい。大畠さんは、これから飲食店で独立したい人を応援できる場所としてOne Tableを始め、ひとつでも多くのシャッターを開けたいと思ったそうだ。きっかけは東日本大震災のボランティアを経験して、日本の社会問題に関心が向いたことだった。One Tableを巣立って、松戸市内で起業した人も複数いるという。

目の前の並木道は、春には、新京成線と並行して常盤平団地を通り3kmにおよぶ桜のトンネルになる。常盤平団地は郊外開発の先駆けとして知られたが、今では住人の多くが高齢化し外国人が増えている。商店街2階の賃貸アパートの入居者の多くも外国人だという。建築家が商店街でカフェと事務所を行き来することで、高齢者と外国人の増えた東京郊外に求められる商店街の新たな役割が見出される予感があった。
(岡部 明子)

入賞

住宅の部

建築主：山口 輝夫
設計：株式会社 杉坂建築事務所
施工：株式会社 杉坂建築事務所
所在地：松戸市南花島

—100年の古民家を中心に地域の交流の場をつくる—

「地域とつながる小さな街並み」

計画地は約1,000㎡の敷地に①古民家②蔵③住まいの3棟が建ち、板張り外壁が連続する「小さな街並み」を形成している。「築100年の古民家を地域の方に活用してもらう」という施主の思いからスタートした。

中心となる古民家は、増改築を重ね25年間使われていない状況だったが、子供食堂や演奏会などのイベントを想定して性能、機能改修を施した。和室を玄関土間に改修したスペースは新たに設けた開口部から庭につながり、オープン厨房が隣接する多目的空間となった。大広間との段差は階段ベンチとして連続的に使用できるようになった。大広間(和室10+10畳)は板張りの一体的空間として再生し、和洋問わないイベントが行えるようになった。

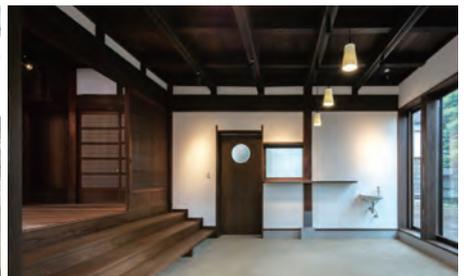
蔵は内装改修後にカフェ+ギャラリーとして稼働し、施主がコーヒーを提供する。住まいは住宅としての機能と性能を保ちながら、薪ストーブや井戸をとり入れ、防災拠点となることを念頭に計画された。

3棟は地域活動の場を提供する一歩に成功したと言えるが一方で現状は外部から「小さな街並み」の様子はわかりにくい。今後外部の景観や地域活動にも影響を与えるように発展していくことで、今回の計画がより意義のあるものになると考える。

(藤本 香)



改修古民家(イベントスペース)、蔵(ギャラリー)と新築(住まい)の三棟が庭でつながる。



築100年の古民家改修、子供食堂など様々な催しが行われる。

(撮影全て/(株)イメージグラム 渡辺 良太郎)